資料１

第１回地域包括ケア団地モデル検討会議（27.7.3 開催）における主なご意見

論点	主　な　ご　意　見
石尾台・高森台地区の現状について	・一番の問題は移動で、非常に坂が多く、公共交通機関はバスしかない。**車が必要不可欠である。**
	・東高森地域には**病院・医科診療所がないし、商業施設もない。車がなければ生活が不便**な地域だが、高齢で車も乗れなくなってきている ・石尾台には憩いの家や集会所があるが、高森台には地域で使えるものがない。県有地に何かできればいいと常に話題になる。**気軽に集まれる場所があるといい**ということが住民の願いである。
	・高森台に医科診療所がないのは住民としては辛いことだと思う。 ・お年寄りの集まるところがないとのことだが、**公園はあるので、お年寄りが集まれるように作り直し**たらいいのではないか。
	・高森台は全体が山であり、商業施設等は山の下の方で高低差ある。高い所に住んでいる人には不便である。名鉄バスの本数も減っている。

論点	主　な　ご　意　見
団地モデルのイメージ図について	・石尾台ではいろいろと活動を行っているが、参加しているのは女性ばかりであり、**男性をどう動かすかが重要**である。野菜や果物づくりのようなもの考えれば、男性の高齢者を動かせるのではないか。 ・サ高住については、自分の家を去り難いとか、新しいコミュニティとうまくやっていけるか心配だとか、新しい人間関係を作るのはしんどいという声も聞く。また、独身寮のような住宅では好まないし、**どういったところなら入ってもらえるのか、検討の必要**がある。私としてはいい案だと思っている。
	・男性にデイサービスに来てもらうことが難しい。初対面のところに入るのに抵抗があり、何度かお話をしても尻込みをされる。農業のようなものを介すると、やってみようということになる。 ・例えば、簡単な絵を描くということではなく、油絵を基本からしっかりとやる等、**知識の豊富なところを活かしたサービスが必要**である。
	・ＵＲと戸建は全く印象が違う。ＵＲでは高齢化率は低いが、困難事例がとても多い。ひとり暮らしが多く、ＵＲは保証人なしで入れるので、支援者のいない人が多い。地域や家族の支援が得られにくく、閉じこもっている人に、**福祉や医療の専門家が手を差し伸べて支援する意識**を持っていかないといけない。
団地モデルにおいて解決したい課題について	・全国 100 か所の団地の医療・福祉拠点を形成していくということで、昨年度、全国で 23 の団地で取組を始め、愛知県では豊明団地が対象となった。県内第二弾として**高蔵寺ニュータウンを医療・福祉拠点の候補として検討**を進めている。できれば次回の会議でその状況をご紹介できればと思う。
	・移動の確保については、**元気な男性の力を借りて移送サービスを**立ち上げてみたり、あるいは、**空き住居を集会所として活用し、そこを拠点にして地域の住民が助け合い活動を展開**していくことができるような取組ができないかと思う。
	・県有地のどのようなものを作るにしても、**子どもや若い人を巻き込むような仕組み**にしてほしい。
	・高森台は多様な土地利用でできているところであり、いろいろな課題がある。**ＵＲと戸建の２つの特性をどうやってクリアしていくか**、それぞれの特徴をみながら進めていかなければならない。また石尾台・高森台はすぐ山が迫っており、東高森は一番縁の部分である。こうした周辺部分と幹線道路沿い部分をどう考えていくかも課題である。 ・**高森山を健康づくりに活用**するなど、何かうまく使っていけないか。 ・藤山台では、廃校になる小学校の活用で、福祉、医療、多世代交流の問題も扱っており、他の地域で進んでいることに対して、ここが何をしていくのかという整理が必要になってくる。

	主　な　ご　意　見
聞き取りによるご意見	・**県有地には若い世代が入る住宅を建設し、商業施設や保育所を併設するなど、若い人に魅力ある街づくり**をすべきである。そうすれば、高齢者と若い世代との交流も生まれ、活性化も図られる。また、戸建のサ高住があってもよい。